

部活動の地域移行

1 国の方針と各地の動き

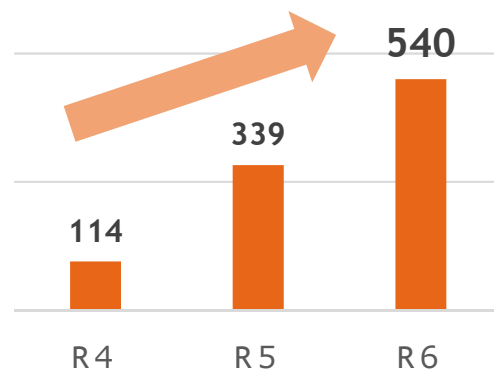
全国で地域移行の取組が増えています

国は部活動の地域移行について「地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す」としたガイドライン※1を令和4年12月に公表しました。

地域移行の取組みが全国各地で広がっています

※1 「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」
 ※2 スポーツ庁HPより(令和4年度は地域運動部活動推進事業における実践研究事業、令和6年度は令和6年1月30日スポーツ庁予算説明会における概数)

地域移行に取り組む自治体数※2



2 地域移行のねらいと伊丹市の方向性

部活動から地域クラブ活動へ

少子化と働き方の変化に伴い、部活動を昔の様に継続することが難しくなっています。その一方で、時代の変化とともにスポーツ・文化芸術活動の多様な担い手が現れています。

伊丹市においても、部活動から多様な担い手による地域クラブ活動で子どもを応援する地域移行を進めていきます。

原則令和8年度中に、平日・休日同時に学校部活動を地域クラブ活動に移行する

※ 但し、国の学校部活動に係る方針等に変更があった場合、スケジュールを変更することもある



多様な担い手で応援します



子ども「やりたい」を応援

部活動・地域クラブ活動に共通することは、子どもたちが「やりたい」ことを「自分で選ぶ」ということです。部活動も地域クラブ活動も「自由加入制」です。学校部活動が子どもたちの「やりたい」を長い歴史で支え続ける中、地域のスポーツ・文化芸術団体、NPOや民間事業者等、多様な担い手が独自の工夫で子どもたちの「やりたい」形に応えています。

地域移行は子どもたちの「やりたい」を応援するしくみを、多様な担い手ともに作ることを目指します。

3 部活動の現状

少子化の進展



- 中学校においてクラブ活動が必須であったところと比較して、中学校生徒数※3は4割近く減少しました
- 今後、更に生徒が減っていくことが見込まれています

※3 学校基本調査

部活動の位置づけ



- 昔は全員加入でした
- 部活動は義務ではありません
伊丹市では加入は自由です
- 部活動は自主的・自発的な課外活動、つまり子どもが「やりたい」からやる活動です

- 部活動は教員が「必ずしも担う必要があるものではない」という考えが国から示されています

教員と部活動



部活動の多くは授業後や休日の時間外労働に支えられています

※4 教員勤務実態調査(令和4年度) 中学校教師の1日当たりの平日の在校等時間(文部科学省)

4 部活動の課題

他の学校にある活動が選べない

- 部活動数は在籍する生徒や教員数によります
- 選択肢に差ができます

部活動にやりたい種目がない

- 少子化により、新しい部活動をつくることは難しくなっています

やりたい活動の形を選べない

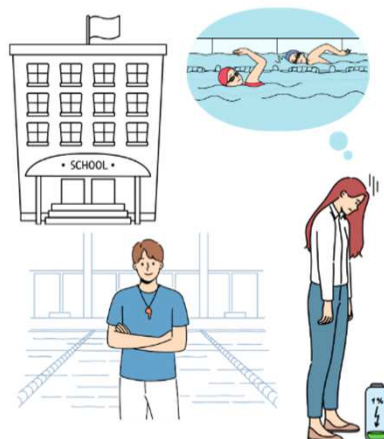
- 「週何回活動するか」、「勝利」「気軽に楽しむ」といった活動の形を選ぶことはできません

運動部	A中学校	B中学校
	陸上競技	
	ソフトテニス	ソフトテニス
	卓球	卓球
	バレーボール 男子	
	バレーボール 女子	バレーボール 女子
	バスケットボール	バスケットボール
	サッカー	サッカー
	軟式野球	軟式野球
	柔道	
	剣道	
	ソフトボール	

生徒数

793人

385人

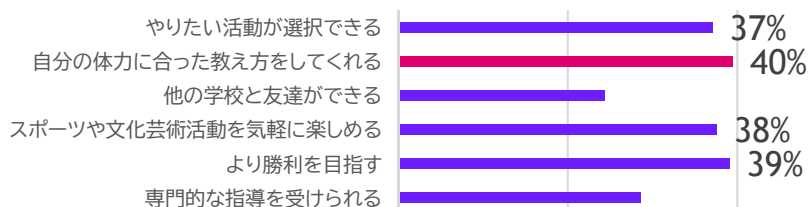


5 子どもたちの声

- 望む活動の形は、「勝利」「気軽」「友達」と多様です
- 週3回以下の活動を望む声が多くを占めます

子どもたちが望む活動の形

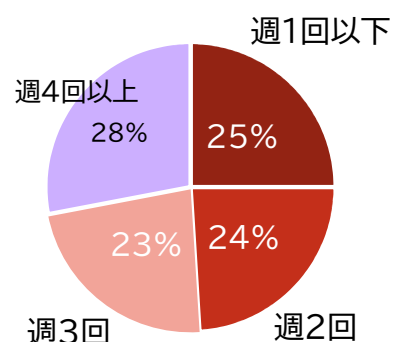
Q これからのスポーツ・文化芸術活動についてどんな形のものがあればよいと思いますか。回答は3つまで選べます。



令和6年5月「これからのスポーツ・文化芸術活動についてのアンケート」 対象は伊丹市立小学校5・6年生(回答数3083)、対象者数は3649

望む活動日数

Q どれくらいの活動日数がいいと思いますか。



6 新しい地域クラブ活動を公募 ～3つの理念～

- 校区に関わらず、生徒が自分の「やりたいこと」を選んで活動できるようにします
- 専門性のある指導や気軽な活動など、子どものニーズに合わせた形をつくります
- 誰もが無理せずに維持できる持続可能なスポーツ・文化芸術環境を整備します



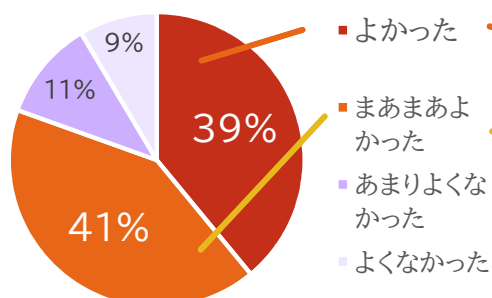
7 伊丹市における「地域クラブ活動」の実証事業

- 市内全中学校、1校1部活動について休日の活動を「地域クラブ活動」として実施し、参加した生徒・保護者の約8割から肯定的な意見をいただきました

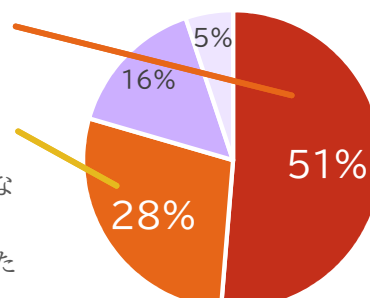
学校	競技
東	なぎなた
西	男子バスケ
南	男子バスケ
北	柔道
天王寺川	柔道
松崎	女子ソフトテニス
荒牧	男子バスケ
笹原	サッカー

参加者へのアンケート結果

生徒



保護者



令和5年12月「学校部活動・地域クラブ活動に関するアンケート」 対象は実証事業に参加した生徒(回答数82)及び保護者(回答数78)、対象者数はいずれも172

8 スケジュール

一般的な運動部の例となります。文化部等で3年生の引退時期が異なる場合があります

令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027)
小学校 6年生	中1 中2の夏までは部活動に所属 中1のはじめから先行実施する地域クラブ活動へ参加	中2 中2夏から地域クラブ活動へ移籍	中3
5年生	小6 中1の夏までは部活動に所属	中1 中1夏から地域クラブ活動へ移籍 中1のはじめから先行実施する地域クラブ活動へ参加	中2
4年生	小5 小学生から参加できる 地域クラブ活動が設立等される場合があります	小6	中1 中1のはじめから地域クラブ活動へ参加
種目毎あり方検討 保護者説明	移行に向けた準備	年度内に全ての 活動を移行	地域移行が完了

9 部活動と地域クラブ活動のちがい



実施主体は学校

学校部活動
学校施設
週5回以内
所属する中学校の生徒
部によっては部費・実費
学校の教員 部によっては外部コーチ



多様な
担い手



地域クラブ活動
学校施設・個別施設・文化施設
週1～5日(週によって柔軟に設定)
柔軟に設定(1校、複数校、多世代…)
運営に必要な最小限の範囲で会費・実費
地域の指導者

活動場所
活動日数
参加者
費用
指導者

- 伊丹市では子どもたち「やりたい」を応援する担い手を広く募ります
- 地域クラブ活動が「いつ」「どこで」「どんな形で」活動しているかについて、伊丹市教育委員会の公式サイトで情報発信を予定しています